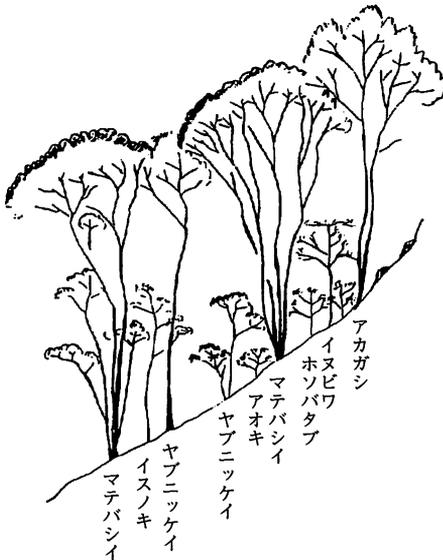


# 植生調査結果

## 植生基本調査表

群落名	ハクサンボク-マテバシイ群落		海拔	560m								
調査地	金峰町金峰山, 駐車場~神社間上斜面		方位	N								
調査日	平成5年8月28日		傾斜	20°								
調査者	寺田 仁志, 満尾 正廣											
1 山頂部	ア斜面	風当 強中弱	備考									
2 尾根部	イ平面	土壤 ボド性, 襍森	調査面積 20m×20m									
3 中腹部	ウ凸地	赤, 黄, 黄褐色, アンド	・アカガシ 40cm (2本分枝)									
4 沢部	エ凹地	グライ, 擬グライ, 沖積	・マテバシイ 34cm (5本分枝)									
5 谷部	オ台地	非固岩屑, 固岩屑										
6 低地部	カ扇状地	土湿 乾, 適, 湿, 過湿										
階層構造	高さ	植 被 率										
B <sub>1</sub> 高木層	17m	90%										
B <sub>2</sub> 亜高木層	9m	40%										
S 低木層	3m	60%										
K 草本層	0.5m	5%										
	B <sub>1</sub>	被 度	群 度	B <sub>2</sub>	被 度	群 度	S	被 度	群 度	K	被 度	群 度
	種 名			種 名			種 名			種 名		
1	マテバシイ	4	4	ヤブニッケイ	2	2	ア オ キ	2	3	ミヤマノコギリシダ	1	1
2	アカガシ	2	2	イヌビワ	1	1	ホソバタブ	2	2	ベニシダ	1	1
3	タブノキ	1	1	イスノキ	1	1	イズセンリョウ	1	1	サツマイナモリ	1	2
4	ヤブニッケイ	1	1	ヤブツバキ	1	1	ヤブツバキ	1	1	ツワブキ	+	2
5				サルナシ	+		イヌビワ	1	1	ハナミョウガ	+	2
6							コガクウツギ	1	1	マメズク	+	2
7							イヌガシ	+		ミズ	+	2
8							オガタマノキ	+		フモトシダ	+	
9							サカキ	+		ノコギリシダ	+	
10							シキミ	+		ピナンカズラ	+	
11							シロダモ	+		ヘクソカズラ	+	
12							スダジイ	+		ヒメアリドウシ	+	
13							タブノキ	+		フユイチゴ	+	
14							ニガキ	+		ミヤマトベラ	+	
15							ハマクサギ	+		サンショウソウ	+	
16							ハクサンボク	+		イノデ	+	
17							バリバリノキ	+		キジョラン	+	
18							ネズミモチ	+		キジノオシダ	+	
19							ミヤマシキミ	+		コカモメズル	+	
20							ハナイカダ	+				
21												



高さ15~20mのマテバシイが被度4~5で優占する群落を沿海部や山頂部で見ると。

マテバシイは萌芽成長し、5~10本ほど同じ太さで根ざわから分枝し、林冠をびっしりとおおっている。胸高直径は大きなもので34cmもあり、また、混在するアカガシは40cmとかなりの樹齢となっている。

マテバシイは第1層をびっしりとおおい林内は暗くなるため、また、マテバシイの落葉は腐植が遅いため、亜高木層以下は一般に発達しない。

マテバシイ群落は乾燥した立地に発達するが、調査地は北斜面凹状地で必ずしも乾燥化しているわけではなかった。そのため草本層は19種と比較的多く、ミヤマノコギリシダ、オオサンショウソウ等適湿地に育つ種が多かった。

## 植生基本調査表

群落名	落葉性風衝低木林	海拔	636m									
調査地	金峰町金峰山頂上付近	方位	N40° W									
調査日	平成 5 年 8 月 28 日	調査者	寺田 仁志, 満尾 正廣									
1 山頂部	ア斜面	風当	強中弱									
2 尾根部	イ平面	土壤	ポド性, 褐森									
3 中腹部	ウ凸地		赤, 黄, 黄褐色, アンド									
4 沢部	エ凹地		グライ, 擬グライ, 沖積									
5 谷部	オ台地		非固岩屑, 固岩屑									
6 低地部	カ扇状地		土湿 乾, 適, 湿, 過湿									
階層構造	高さ	植被率										
B <sub>1</sub> 高木層	_____m	_____%										
B <sub>2</sub> 亜高木層	_____m	_____%										
S 低木層	_____3m	_____100%										
K 草本層	_____0.3m	_____5%										
			備考	調査面積 2m×5m								
	B <sub>1</sub>	被度	群度	B <sub>2</sub>								
	種名			種名								
				S								
				種名								
				K								
				種名								
1				コックバネウツギ	3	3	ツ	ワ	ブ	キ	1	1
2				オンツツジ	2	2	カ	タ	ヒ	バ	+	2
3				マテバシイ	2	2	テ	イ	カ	カ	ズ	ラ
4				ネジキ	1	1	マ	メ	ズ	タ	+	2
5				アカガシ	1	1	キ	ッ	コ	ウ	ハ	グ
6				クロキ	1	1	チ	デ	ミ	ザ	サ	+
7				スタジイ	1	1	ベ	ニ	シ	ダ	+	2
8				イスノキ	1	1	イ	ズ	セ	ン	リ	ョ
9				マルバアオダモ	1	1	フ	ユ	イ	チ	ゴ	+
10				ヤブツバキ	1	1	マ	ル	バ	ベ	ニ	シ
11				マユミ	1	1	サ	サ	ク	サ	+	+
12				ハクサンボク	1	1	マ	ル	バ	ド	コ	ロ
13				エゴノキ	1	1	ヒ	メ	ミ	ヤ	マ	ス
14				ハマクサギ	1	1	ヤ	ブ	コ	ウ	ジ	+
15				ネズミモチ	1	1	ジャ	ノ	ヒ	ゲ	+	+
16				イヌビワ	1	1	ナ	ガ	バ	ノ	モ	ミ
17				カマツカキ	+							
18				ヒサカキ	+							
19				コガクウツギ	+							
20				シキ	+							
21				ガマズミ	+							
22				サルトリイバラ	+							
23				カキノキ	+							
24				ヤブニッケイ	+							
25				タブノキ	+							



金峰山の山頂部の風衝地に群落の高さ 3 m 程度の広葉低木の優占する群落が認められた。

コックバネウツギが優占し、オンツツジ、ネジキ、マルバアオダモ、マユミ等の落葉低木の中に成長しきれないマテバシイ、アカガシ、スタジイ、イスノキ等の常緑広葉樹が混在する。

母岩がむきだし表土が少なく、保水力の弱い立地になっているため、乾湿の大きな立地に生育するカタヒバ、マルバベニシダ等が低被度で草本層に見られる。

# 植生基本調査表

群落名	イスノキウラジロガシ群集	海拔	615m
調査地	金峰町金峰山, 山頂よりやや低い西斜面	方位	W
調査日	平成 5 年 8 月 28 日	調査者	寺田 仁志, 満尾 正廣
1 山頂部	ア斜面	風当	強 弱
2 尾根部	イ平面	土壌	ボド性, 腐森
3 中腹部	ウ凸地		赤, 黄, 黄褐色, アンド
4 沢部	エ凹地		グライ, 擬グライ, 沖積
5 谷部	オ台地		非固岩屑, 固岩屑
6 低地部	カ扇状地		土湿 乾, 適, 湿, 過湿
階層構造		高さ	植被率
B <sub>1</sub> 高木層		8m	90%
B <sub>2</sub> 亜高木層		4m	20%
S 低木層		2m	10%
K 草本層		0.3m	5%

	B <sub>1</sub>		被度	群度	B <sub>2</sub>		被度	群度	S		被度	群度	K		被度	群度
	種名	種名			種名	種名			種名	種名						
1	イスノキ		3	3	ヤブツバキ		1	1	ヤブツバキ		1	1	キジノオシダ		1	1
2	アカガシ		2	2	スダジイ		1	1	クロバク		1	1	キッコウハグマ		+	2
3	ヤブツバキ		1	1	イヌマキ		1	1	コガクウツギ		1	1	シュスラン		+	2
4	モッコク		1	1	サカキ		1	1	ミヤマシキミ		1	1	コハシゴシダ		+	2
5	タブノキ		1	1	ヒサカキ		1	1	ヤブムラサキ		1	1	マメズタ		+	2
6	モチノキ		1	1	オンツツジ		1	1	クロキ		+		サツマイナモリ		+	+
7	スダジイ		1	1	モチノキ		+		ヤブニッケイ		+		ビナンカズラ		+	+
8	マテバシイ		1	1					ハクサンボク		+		ヤマジノホトトギス		+	+
9									サカキ		+		ガンクビソウ		+	+
10									モッコク		+		コクラシ		+	+
11									サルトリイバラ		+		ベニシダ		+	+
12									イスノキ		+		テイカカズラ		+	+
13									サザンカ		+		オオバトンボソウ		+	+
14									ノキシノブ		1		ヒメミヤマミレ		1	
15									タブノキ		+		アオツツラフジ		+	+
16									スダジイ		+		ジャノヒゲ		+	+
17									カクレミノ		+		ハナミョウガ		+	+
18									ウラジロガシ		+		トウゲシバ		+	+
19									モクレイシ		+		ササクサ		+	+
20									シロダモ		+					
21									ネズミモチ		+					
22									イヌガシ		+					
23									コバンモチ		+					
24									マンリョウ		+					
25									ムギラン		+					
26									ウチワゴケ		+					



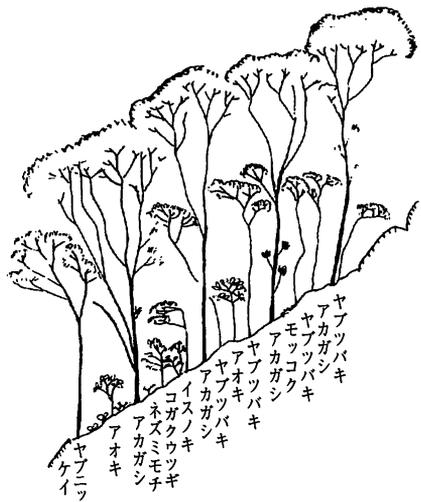
金峰山山頂近くの西側急斜面で、ところどころに岩石が裸出した立地でイスノキが優占する林分が見られる。山頂に近く風当たりが強く、また、急斜面で表土の蓄積が少ないため、群落の高さは8mと低く胸高直径も15~25cmと大径木は見られない。

高木層はびっしりとイスノキやアカガシ等でおおわれているため、亜高木層以下の植生の発達はみられないが、低木層にムギランの着生や、草本層にシュスラン、コクラシ、オオバトンボソウ等のラン科植物も見られるため、種組成も豊富でありこの地域の潜在自然植生に近似した群落と思われる。



## 植 生 基 本 調 査 表

群落名	イスノキーウラジロガシ群集	海拔 560m										
調査地	金峰町金峰山, 社務所広場下北斜面	方位 N20° W										
調査日	平成 5 年 8 月 28 日	調査者	寺田 仁志, 満尾 正廣									
1 山頂部	ア斜面	風当 強 中 弱	備考 調査面積 20m×20m  ・風強く乾燥, 下払いの跡あり									
2 尾根部	イ平面	土壌 ボド性, 褐森										
3 中腹部	ウ凸地	赤, 黄, 黄褐色, アンド										
4 沢部	エ凹地	グライ, 擬グライ, 沖積										
5 谷部	オ台地	非固岩屑, 固岩屑										
6 低地部	カ扇状地	土湿 乾, 適, 湿, 過湿										
階層構造		高 さ	植 被 率									
B <sub>1</sub> 高木層		18m	90%									
B <sub>2</sub> 亜高木層		8m	30%									
S 低木層		1.5m	50%									
K 草本層		0.3m	10%									
	B <sub>1</sub>	被 度	群 度	B <sub>2</sub>	被 度	群 度	S	被 度	群 度	K	被 度	群 度
	種 名			種 名			種 名			種 名		
1	アカガシ	4	4	イスノキ	2	2	イズセンリョウ	1	1	チヂミザサ	1	2
2	スダジイ	2	2	ヒサカキ	2	2	コガクウツギ	1	1	サツマイナモリ	1	2
3	マテバシイ	1	1	ヤブツバキ	2	2	アオキ	1	1	ツワブキ	1	1
4	タブノキ	1	1	マテバシイ	1	1	ヤブツバキ	1	1	ヒメアリドウシ	1	1
5	イスノキ	1	1	シキミ	1	1	ミヤマシキミ	1	1	ウmanoszukusa	+	
6				ホンバタブ	1	1	クロキ	+		ハエドクソウ	+	
7				テイカカズラ	+		ネズミモチ	+		ミヤマコギリシダ	+	
8							サザンカ	+		ハナミョウガ	+	
9							ヤブムラサキ	+		ニガキ	+	
10							イヌビワ	+		テイカカズラ	+	
11							イヌガシ	+		ヘクソカズラ	+	
12							ハマクサギ	+		マメズタ	+	
13							ハクサンボク	+		マルバベニシダ	+	
14							モチノキ	+		キッコウハグマ	+	
15							エゴノキ	+		ジャノヒゲ	+	
16							クスノキ	+		ビナンカズラ	+	
17							マメズタ	+		ガンクビソウ	+	
18							ノキシノブ	+		ハナイカダ	+	
19							ツルグミ	+		マムシグサ	+	
20							シロダモ	+		ベニシダ	+	
21							ヤブニッケイ	+		ツルニンジン	+	
22							イヌマキ	+		オオサンショウソウ	+	
23							クサギ	+		コバノボタンヅル	+	
24							モッコク	+		シュスラン	+	
25										イタビカズラ	+	
26												



アカガシの優占する林分で第1層の高さは22mと高木林となる。山頂に近いところでは風の影響をうけて徐々に低くなる。

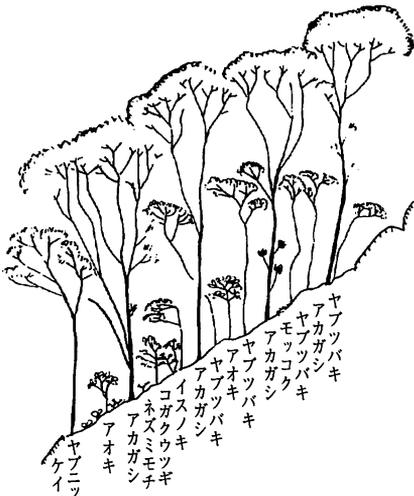
アカガシが被度3～5で優占し、イスノキ、スダジイ、タブノキ、マテバシイが被度1～2で混在する。胸高直径が90cmに達するアカガシや、86cmのスダジイもあり大径木が点在し、極相林をおもわせる林分もあった。

林床は腐植層の厚いところには植被率が高く、ミヤマノコギリシダをはじめカツモウイノデ、オオカナワラビ、フモトシダ等のシダ植物やシュスラン、ガンゼキラン等のラン科植物を構成種に23～25種と非常に多い。

植物社会学的には、イスノキーウラジロガシ群集の1型とも考えられるが今後の検討の余地がある。

# 植生基本調査表

群落名		イスノキーウラジロガシ群集		海拔 550m								
調査地		金峰町金峰山, 社務所広場下南西斜面		方位 S30° W								
調査日		平成 5 年 8 月 28 日		傾斜 20°								
調査者		寺田 仁志, 満尾 正廣										
1 山頂部	ア斜面	風当 強 中 弱	備考 調査面積 15m×20m  ・スタジイ 86cm ・アカガシ 40cm, 90cm									
2 尾根部	イ平面	土壤 ボド性, 腐森										
3 中腹部	ウ凸地	赤, 黄, 黄褐色, アンド										
4 沢部	エ凹地	グライ, 擬グライ, 沖積										
5 谷部	オ台地	非固岩屑, 固岩屑										
6 低地部	カ扇状地	土湿 乾, 適, 湿, 過湿										
階層構造		高さ	植被率									
B <sub>1</sub> 高木層		22m	80%									
B <sub>2</sub> 亜高木層		12m	50%									
S 低木層		4m	60%									
K 草本層		1m	70%									
	B <sub>1</sub>	被度	群度	B <sub>2</sub>	被度	群度	S	被度	群度	K	被度	群度
	種名			種名			種名			種名		
1	アカガシ	4	4	イスノキ	3	3	アオキ	2	2	ミヤマコギリシダ	3	3
2	スタジイ	2	2	サザンカ	1	1	ヤブニッケイ	1	1	サツマイナモリ	2	2
3	タブノキ	1	1	ホソバタブ	1	1	サカキ	1	1	ヤマアオイ	1	2
4	イスノキ	1	1	イタビカズラ	+		モチノキ	+		ツワブキ	1	1
5				シシラン	+		バリバリノキ	+		カツモウイノデ	1	1
6							クサギ	+		イズセンリョウ	1	1
7							ネズミモチ	+		ハナミョウガ	1	1
8							ハマクサギ	+		ミョウガ	+	2
9							イヌガヤ	+		イワガネゼンマイ	+	2
10							クリハラン	+		イタビカズラ	+	
11										オオサンショウソウ	+	
12										フユイチゴ	+	
13										ルリミノキ	+	
14										イワガネ	+	
15										オオカナワラビ	+	
16										テイカカズラ	+	
17										コバノカナワラビ	+	
18										フモトシダ	+	
19										ミヤマシキミ	+	
20										ミヤマトベラ	+	
21										ガンゼキラン	+	
22										ハナイカダ	+	
23										ナガバヤブマオ	+	
24										オオバチドメ	+	
25										マムシグサ	+	
26												



アカガシの優占する林分で第1層の高さは18~22mと高木林となる。山頂に近いところでは風の影響を受けて徐々に低くなる。

アカガシが被度3~5で優占し、イスノキ、スタジイ、タブノキ、マテバシイが被度1~2で混在する。胸高直径が90cmに達するアカガシや86cmのスタジイもあり、大径木が点在し極相林をおもわせる林分もあった。

林床は腐植質の厚いところには植被率が高く、ミヤマコギリシダをはじめ、カツモウイノデ、オオカナワラビ、フモトシダ等のシダ植物やシスラン、ガンゼキラン等のラン科植物を構成種に23~25種と非常に多い。

植物社会学的にはイスノキーウラジロガシ群集の一型とも考えられるが今後の検討の余地がある。



# 植生基本調査表

群落名	ミミズバイースタジイ群集	海拔	125m									
調査地	金峰町新山宮田(中岳北西)	方位	N40° W									
調査日	平成5年8月29日	調査者	寺田 仁志, 満尾 正廣									
1 山頂部	ア斜 面	風当	強 中 弱									
2 尾根部	イ平 面	土壌	ボド性, 褐森									
3 中腹部	ウ凸 地	色	赤, 黄, 黄褐色, アンド									
4 沢部	エ凹 地		グライ, 擬グライ, 沖積									
5 谷部	オ台 地		非固岩屑, 固岩屑									
6 低地部	カ扇 状地		土湿 乾, 適, 湿, 過湿									
階層構造	高 さ	植 被 率										
B <sub>1</sub> 高木層	15m	90%										
B <sub>2</sub> 亜高木層	8m	60%										
S 低木層	1m	5%										
K 草本層	0.2m	1%										
備考 調査面積 15m×20m ・スタジイ 36cm, 44cm ・ヤマモモ 30cm, 4本分枝												
	B <sub>1</sub>	被 度	群 度	B <sub>2</sub>	被 度	群 度	S	被 度	群 度	K	被 度	群 度
	種 名			種 名			種 名			種 名		
1	スダジイ	3	3	タイミンタチバナ	2	2	ハクサンボク	1	1	サルトリイバラ	+	
2	ヤマモモ	2	2	スダジイ	1	1	タイミンタチバナ	1	1	ナツフジ	+	
3	タブノキ	1	1	タブノキ	1	1	ヒサカキ	1	1	ツワブキ	+	
4	ハゼノキ	1	1	コバンモチ	1	1	クロキ	+		ウマノスズクサ	+	
5	コナラ	1	1	カゴノキ	1	1	ヤマビワ	+		マルバドコロ	+	
6	クロキ	1	1	カクレミノ	1	1	ネズミモチ	+		ミツバアケビ	+	
7	ヤマザクラ	1	1	ヤマザクラ	1	1	イヌビワ	+		タブノキ	+	
8	アラカシ	1	1	ヒメユズリハ	1	1	コバンモチ	+		タイミンタチバナ	+	
9				クロキ	1	1	ヤブニッケイ	+				
10				ホウライチク	+		アラカシ	+				
11							クチナシ	+				
12							イヌマキ	+				
13							クスノキ	+				
14							モッコク	+				
15							タブノキ	+				
16							ミミズバイ	+				
17							ヤマモモ	+				
18							ミサオノキ	+				
19							ハマビワ	+				
20							シャリンバイ	+				
21							モチノキ	+				



中岳山西尾根部にこんもりとした森林が見られた。調査してみると樹齢は意外に若い萌芽2次林であった。

尾根部のため樹高は15m前後と低い。胸高直径40cm前後のスタジイが優占し、4～6本に萌芽し、成長したヤマモモの他ハゼノキ、コナラ、ヤマザクラなどの落葉広葉樹が高木層に樹冠を広げている。

尾根部の乾燥した立地のため、草本層は植被率がきわめて低く、サルトリイバラ、ナツフジ、オオバウマノスズクサ、マルバドコロ、ミツバアケビ等の蔓性植物が低被度で見られるだけであった。

# 植生基本調査表

群落名	ハクサンボク-マテバシイ群落				海拔	20m	
調査地	加世田市小湊(烏山北西, 相星)北				方位	N60° W	
調査日	平成5年8月29日		調査者	寺田 仁志, 満尾 正廣			
1 山頂部	ア斜面	風当	強中弱	備考 調査面積 15m×20m ・マテバシイ萌芽林(二次林) ・マテバシイ 13cm, 6~14本分枝			
2 尾根部	イ平面	土壌	ボド性, 褐森				
3 中腹部	ウ凸地		赤, 黄, 黄褐色, アンド				
4 沢部	エ凹地		グライ, 擬グライ, 沖積				
5 谷部	オ台地		非固岩層, 固岩層				
6 低地部	カ扇状地		土湿 乾, 適, 湿, 過湿				
階層構造		高さ	植 被 率				
B <sub>1</sub> 高木層		9m	95%				
B <sub>2</sub> 亜高木層		6m	5%				
S 低木層		2m	10%				
K 草本層		0.5m	3%				

	B <sub>1</sub>		被度	群度	B <sub>2</sub>		被度	群度	S		被度	群度	K		被度	群度
	種	名			種	名			種	名			種	名		
1	マテバシイ		5	4	タイミンタチバナ		1	1	マテバシイ		1	1	オオカグマ		+	2
2	タブノキ		1	1	ネズミモチ		+	+	ヒサカキ		1	1	ナツフジ		+	+
3	クロキ		1	1	ヒメユズリハ		+	+	ハクサンボク		1	1	ハクソカズラ		+	+
4	ハゼノキ		1	1	モチノキ		+	+	ネズミモチ		1	1	ウラジロ		+	+
5	アラカシ		1	1					カクレミノ		1	1	ツワブキ		+	+
6	ヤマモモ		1	1					イヌマキ		+	+	ヤマイタチシダ		+	+
7	モチノキ		1	1					モチノキ		+	+	マルバドコロ		+	+
8	ハマスルトリイバラ		+	+					ツルグミ		+	+	ジャノヒゲ		+	+
9									クチナシ		+	+	ベニシダ		+	+
10									ヒメユズリハ		+	+				
11									ヤブムラサキ		+	+				
12									イヌビワ		+	+				
13									ナワシログミ		+	+				
14									ヤマビワ		+	+				
15									クロキ		+	+				
16									ヤブツバキ		+	+				



低地部の海岸にやや近い乾性的な斜面や尾根部にマテバシイが優占する林分が見られた。

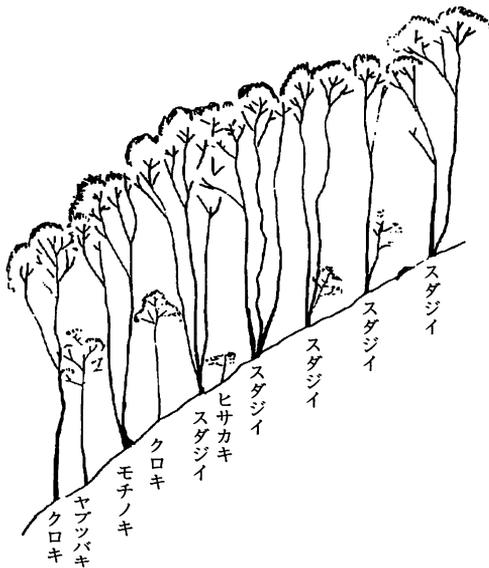
かつて薪炭材としてくりかえし伐採され、萌芽したマテバシイが胸高直径13cm, 高さ9mまで成長したもので、根ざわから6~14本に分枝して独特の群落外観をしている。

マテバシイの葉は腐植しにくく、そのため堆積して草本類の発達は著しく悪く、種組成も貧化している。

また、高木層がびっしりとおおっているため、亜高木層以下の植生の発達も悪い。

# 植生基本調査表

群落名	スダジイ群落	海拔	40m									
調査地	加世田市小湊（鳥山北西，相星）南	方位	N40° W									
調査日	平成 5 年 8 月 29 日	調査者	寺田 仁志，満尾 正廣									
1 山頂部	ア斜面	風当	強 弱									
2 尾根部	イ平面	土壤	ポド性，褐森									
3 中腹部	ウ凸地		赤，黄，黄褐色，アソ									
4 沢部	エ凹地		グライ，擬グライ，沖積									
5 谷部	オ台地		非固岩層，固岩層									
6 低地部	カ扇状地		土湿 乾，適，湿，過湿									
階層構造	高さ	植被率										
B <sub>1</sub> 高木層	9m	95%										
B <sub>2</sub> 亜高木層	5m	5%										
S 低木層	2m	5%										
K 草本層	0.3m	3%										
備考 調査面積 15m×15m ・スダジイ萌芽林（二次林） ・スダジイ 17cm，3～6本分枝												
	B <sub>1</sub>	被度	群度	B <sub>2</sub>	被度	群度	S	被度	群度	K	被度	群度
	種名			種名			種名			種名		
1	スダジイ	5	4	クロキ	1	1	スダジイ	1	1	ナツフジ	+	2
2	クロキ	1	1	ヤブツバキ	1	1	ヒサカキ	1	1	コシダ	+	
3	モチノキ	1	1	タイミンタバナ	+		マテバシイ	+		ツワブキ	+	
4	マテバシイ	1	1	コバンモチ	+		ヤブムラサキ	+		ウラジロ	+	
5	シキミ	+					イヌマキ	+		オオカグマ	+	
6	ハマサルトリイバラ	+					ハクサンボク	+		オオバウマノスズクサ	+	
7	ウマノスズクサ	+					モクレイシ	+		キダチニンドウ	+	
8	ハゼノキ	+					タブノキ	+		ヘクソカズラ	+	
9							ヒメユズリハ	+		ヌスビトハギ	+	
10							サルトリイバラ	+		サカキカズラ	+	
11							ネズミモチ	+		サルトリイバラ	+	
12							クチナシ	+				
13							トベラ	+				
14							ヤマビワ	+				



マテバシイの2次林に群落の上部で隣接し，マテバシイ林よりもやや恵まれた立地に成立はしているが全体として乾性的。マテバシイ2次林と同様，たびたび薪炭材として伐採されたためか，胸高直径17cmの幹が3～6本に根ざわから分枝して，高さ9mに成長し刈り込みのおこなわれている庭木のように整った樹形となっている。

高木層がびっしりと繁茂し，亜高木層以下の発達は著しく悪い。低木層にもヤブツバキ，ハクサンボク，ヒメユズリハ等の乾性的な樹種が多く，草本層11種のうち6種が蔓生植物であった。

## 植 生 基 本 調 査 表

群落名	オニヤブソテツ-ハマビワ群集			海拔	40m							
調査地	加世田市小湊宇土山西斜面			方位	W							
調査日	平成 5 年 8 月 29 日			調査者	寺田 仁志, 満尾 正廣							
1 山頂部	ア斜面	風当	強中弱	備考 調査面積 3m×5m  ・舌状尾根, 岬								
2 尾根部	イ平面	土壤	ボド性, 褐森									
3 中腹部	ウ凸地		赤, 黄, 黄褐色, アンド									
4 沢部	エ凹地		グライ, 擬グライ, 沖積									
5 谷部	オ台地		非固岩屑, 固岩屑									
6 低地部	カ扇状地		土湿 乾, 適, 湿, 過湿									
階層構造		高 さ	植 被 率									
B <sub>1</sub> 高木層		m	%									
B <sub>2</sub> 亜高木層		m	%									
S 低木層		1.5m	95%									
K 草本層		0.3m	50%									
	B <sub>1</sub>	被 度	群 度	B <sub>2</sub>	被 度	群 度	S	被 度	群 度	K	被 度	群 度
	種 名			種 名			種 名			種 名		
1							ハマヒサカキ	4	4	ヒゲスゲ	3	3
2							ノブドウ	2	2	ジャノヒゲ	+	2
3							トベラ	2	2	コオニタビラコ	+	
4							ハマビワ	1	1	ナツフジ	+	
5							シャリンバイ	1	1	ハマサルトリイバラ	+	
6							ヤブニッケイ	1	1	ヤブツバキ	+	
7							ハチジョウススキ	1	1	オニヤブソテツ	+	
8							ヤブツバキ	1	1	ホソバワダン	+	
9							ホウロクイチゴ	1	1			
10							マルバグミ	1	1			
11							ネムノキ	+				
12							クロキ	+				
13							イヌビワ	+				
14							ナツフジ	+				
15							ヘクソカズラ	+				
16							ハマナタマメ	+				
17							シャシャンボ	+				
18							ヒサカキ	+				
19							エビヅル	+				
20							アオツヅラフジ	+				
21							マサキ	+				



海岸性風衝低木林, オニヤブソテツ-ハマビワ群集。

低木層と草本層の二層構造で, 低木層にハマヒサカキが優占するが, ハマビワ, シャリンバイ等の低木やノブドウ, マルバグミ, ハマナタマメ等の蔓生植物がからみあって混沌とした状態である。枝は風下側によくのび, ついたて状に一定の高さで刈り込まれたようになっている。また, 草本層にはヒゲスゲが塊状に分布しているほかは, 点々と他の植物は生えている。この群落の下端は絶壁となって調査不可能な地形である。

## 植生基本調査表

群落名	ハゼノキ群落 (海岸性落葉広葉樹林)	海拔 40m										
調査地	加世田市小湊港宇土山東斜面	方位 E										
調査日	平成 5 年 8 月 29 日	傾斜 25°										
調査者	寺田 仁志, 満尾 正廣											
1 山頂部	ア斜面	風当 強中弱	備考 調査面積 8m×15m ・舌状尾根, 岬 ・ハゼノキ 20cm ・ヤブニッケイ 25cm									
2 尾根部	イ平面	土壤 ボド性, 褐森										
3 中腹部	ウ凸地	赤, 黄, 黄褐色, アンド										
4 沢部	エ凹地	グライ, 擬グライ, 沖積										
5 谷部	オ台地	非固岩屑, 固岩層										
6 低地部	カ扇状地	土湿 乾, 適, 湿, 過湿										
階層構造		高さ	植被率									
B <sub>1</sub> 高木層	8m	80%										
B <sub>2</sub> 亜高木層	6m	70%										
S 低木層	2m	10%										
K 草本層	0.3m	20%										
	B <sub>1</sub>	被度	群度	B <sub>2</sub>	被度	群度	S	被度	群度	K	被度	群度
	種名			種名			種名			種名		
1	ハゼノキ	4	4	ハマビワ	2	2	モクタチバナ	1	1	ヤブツバキ	2	3
2	ヤブニッケイ	2	2	モクタチバナ	2	2	クサギ	1	1	オニヤブソテツ	1	1
3	ハマビワ	1	1	ヤブニッケイ	2	2	マルバグミ	+	2	ヘクソカズラ	+	
4	ネムノキ	1	1	ヤブツバキ	1	1	イヌビワ	+		カラスウリ	+	
5	タブノキ	1	1	ヤツデ	+		ヤブニッケイ	+		ムサシアブミ	+	
6							ヤブツバキ	+		コヤブラン	+	
7							ネズミモチ	+				
8							イヌマキ	+				
9							ハマビワ	+				



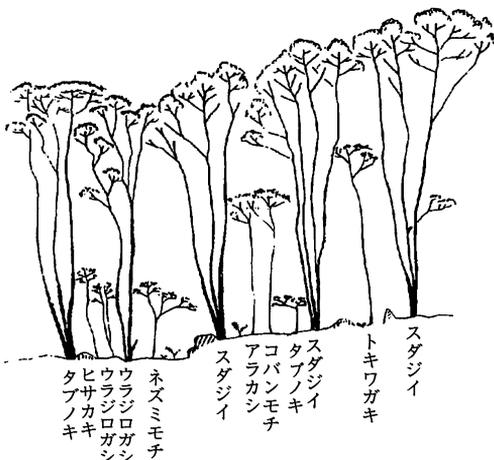
ハゼノキが優占する海岸性の落葉広葉樹林で4層構造となっている。尾根を境にして風上側に風衝低木林。風下側が本群落となる。

ハゼノキ, ネムノキ等の先駆性の落葉広葉樹と, ムサシアブミ-タブノキ群集のタブノキ, ヤブニッケイ等の常緑広葉樹とオニヤブソテツ-ハマビワ群集の種がまざり混沌とした群落外観を形成している。



# 植生基本調査表

群落名	ミミズバイースタジイ群集	海拔 320m										
調査地	加世田市長屋山北西山麓 (堀切の上)	方位 N45° W										
調査日	平成 5 年 9 月 15 日	傾斜 50°										
調査者	寺田 仁志, 満尾 正廣											
1 山頂部	ア斜 面	風当 強 中 弱	備考 調査面積 20m×15m  ・スタジイ 35cm, 4~5本萌芽									
2 尾根部	イ平 面	土壌 ボド性, 礫森										
3 中腹部	ウ凸 地	赤, 黄, 黄褐色, アンド										
4 沢 部	エ凹 地	グライ, 擬グライ, 沖積										
5 谷 部	オ台 地	非固岩屑, 固岩屑										
6 低地部	カ扇 状地	土湿 乾, 適, 湿, 過湿										
階層構造	高 さ	植 被 率										
B <sub>1</sub> 高木層	16m	80%										
B <sub>2</sub> 亜高木層	8m	20%										
S 低木層	3m	60%										
K 草本層	0.5m	20%										
	B <sub>1</sub>	被 度	群 度	B <sub>2</sub>	被 度	群 度	S	被 度	群 度	K	被 度	群 度
	種 名			種 名			種 名			種 名		
1	ス タ ジ イ	4	4	タ プ ノ キ	1	1	ス タ ジ イ	2	2	オ オ カ グ マ	2	2
2	ト キ ワ ガ キ	1	1	モ チ ノ キ	1	1	ヤ ブ ツ バ キ	2	2	ツ ワ ブ キ	+	+
3	タ プ ノ キ	1	1	イ ス ノ キ	1	1	サ ザ ン カ	2	2	サ ル ト リ イ バ ラ	+	+
4	ウ ラ ジ ロ ガ シ	1	1	ア ラ カ シ	+	+	ホ ソ バ タ ブ	1	1	ハ ナ ミ ヨ ウ ガ	+	+
5	モ チ ノ キ	1	1	コ バ ン モ チ	+	+	ヤ マ ビ ワ	1	1	ム	+	+
6	ア カ ガ シ	1	1				タイミンタチバナ	1	1	ヘ ク ソ カ ブ ラ	+	+
7	ク ロ キ	1	1				シ キ	1	1	ノ キ シ ノ プ	+	+
8	ヤ マ モ ガ シ	1	1				ヒ サ カ キ	1	1	ナ ギ ラ ン	+	+
9	ヤ マ モ モ	1	1				イ ス ノ キ	1	1	キ ダ チ ニ ン ド ウ	+	+
10	エ ゴ ノ キ	+	+				イ ヌ ガ シ	1	1	チ デ ミ ザ サ	+	+
11							タ プ ノ キ	1	1			
12							ア ラ カ シ	+	+			
13							ウ ラ ジ ロ ガ シ	+	+			
14							コ バ ン モ チ	+	+			
15							ネ ズ ミ モ チ	+	+			
16							ミ ミ ズ バ イ	+	+			
17							ト キ ワ ガ キ	+	+			
18							ク ス ノ キ	+	+			
19							サ カ キ	+	+			
20							ハ ク サ ン ボ ク	+	+			
21							ツ ル グ ミ	+	+			
22							ヤ ブ ム ラ サ キ	+	+			
23							シ ロ ダ モ	+	+			
24							ク チ ナ シ	+	+			
25							カンザブrouノキ	+	+			
26							カ ク レ ミ ノ	+	+			
27							カ ゴ ノ キ	+	+			



伐採後おそらく35~45年程度経過した群落で、スタジイの胸高直径35cm前後のものが4~5本萌芽成長し、まっすぐ16m前後まで成長している。また、他の樹種もほぼ同じ太さになっている。

高木層が本来であれば90~95%前後の植被率になっていたものと思われるが、亜高木層の発達は悪いが低木層は次世代のスタジイの他、ヤブツバキ、サザンカ等の被度が高い。

傾斜がゆるく腐植層がたまりはじめたところであるが、やや乾燥した土質である。

ナギランを10数個体調査地内で確認した。台風直後で高木層をはじめとして回復していない群落である。







# 植生基本調査表

群落名	クロマツ群落				海拔	90m										
調査地	坊津町坊, 峰ヶ崎入口 (歴史館先の岬)				方位	N60° W										
					傾斜	10°										
調査日	平成 5 年 9 月 23 日		調査者	寺田 仁志, 滝尾 正廣												
1 山頂部	ア斜面	風当	強中弱	備考 調査面積 10m×15m ・クロマツ 25cm												
2 麓根部	イ平面	土壤	ボド性, 褐森													
3 中腹部	ウ凸地		赤, 黄, 黄褐色, アンド													
4 沢部	エ凹地		グライ, 擬グライ, 沖積													
5 谷部	オ台地		非固岩屑, 固岩屑													
6 低地部	カ扇状地		土湿 乾, 適, 湿, 過湿													
階層構造	高さ	植被率														
B; 高木層	14m	60%														
B; 亜高木層	8m	20%														
S 低木層	3m	60%														
K 草本層	0.3m	10%														
	B <sub>1</sub>		被度	群度	B <sub>2</sub>		被度	群度	S		被度	群度	K		被度	群度
	種名				種名				種名				種名			
1	クロマツ		4	4	ハゼノキ		1	1	タイミンタチバナ		2	2	ヤブラン		1	1
2					マルバグミ		1	1	ヤブツバキ		2	2	ヘクソカズラ		1	1
3					モッコク		1	1	タブノキ		2	2	ササクサ		1	1
4					タブノキ		1	1	マルバツルグミ		2	2	ツワブキ		1	1
5					モチノキ		1	1	ヒメユズリハ		1	2	コバノカナワラビ		+	2
6					テイカカズラ		+		ネズミモチ		1	1	コバノタツナミ		+	2
7					シラタマカズラ		+		ハクサンボク		1	1	ナツフジ		+	
8					ヤマザクラ		+		シャシャンボ		1	1	コヤブラン		+	
9									クチナシ		1	1	テイカカズラ		+	
10									トベラ		1	1	シラタマカズラ		+	
11									ヤブニッケイ		1	1	ビナンカズラ		+	
12									シャリンバイ		1	1	コシダ		+	
13									モクタチバナ		1	1	ナンカイイタチシダ		+	
14									ネムノキ		+		オバウマノスズクサ		+	
15									ナナメノキ		+		ムベ		+	
16									イヌマキ		+		ススキ		+	
17									モクレイシ		+		ハマホラシノブ		+	
18									サルトリイバラ		+		カニクサ		+	
19									ムベ		+		ヤマカモジグサ		+	
20									ミサオノキ		+		ヒメハギ		+	
21									カンコノキ		+		クサスギカズラ		+	
22									モチノキ		+		ヒヨドリバナ		+	
23									ホルトノキ		+					
24									ハマクサギ		+					
25									オムラサキシキブ		+					



海岸岩上地の台風等の強風によって、しばしばギャップが生じるところに成立する群落である。

クロマツ1種が高木層に抜け出し、はっきりとした区別ができない状態の亜高木・低木層となっている。樹脂分の多い分解されにくいクロマツの葉が堆積したところに草本層がある。

群落を代表する種として亜高木・低木層にマルバグミ、ハクサンボク、シャシャンボ、シャリンバイ、カンコノキ。草本層にヤブラン、コヤブラン、ツワブキ、シラタマカズラ、ハマホラシノブがある。

なお、高木層のクロマツは30~40年生、胸高直径25cm、マツクイムシのダメージを受け枯死寸前のものであった。

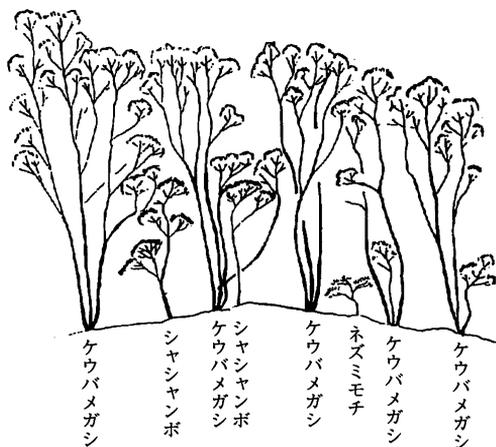
## 植生基本調査表

群落名	ウバメガシ群落	海拔	90m
調査地	坊津町泊より約1.5km北西、泊浦に面した小岬	方位	S
調査日	平成5年9月23日	調査者	寺田 仁志, 満尾 正廣
1 山頂部	ア斜面	風当	強中弱
2 尾根部	イ平面	土壤	ポド性, 藪森
3 中腹部	ウ凸地		赤, 黄, 黄褐色, アンド
4 沢部	エ凹地		グライ, 擬グライ, 沖積
5 谷部	オ台地		非固岩屑, 固岩屑
6 低地部	カ扇状地		土湿乾, 適湿, 過湿
階層構造		高さ	植被率
B <sub>1</sub> 高木層		8m	5%
B <sub>2</sub> 亜高木層		6m	90%
S 低木層		2m	10%
K 草本層		0.3m	5%

	B <sub>1</sub>		被度	群度	B <sub>2</sub>		被度	群度	S		被度	群度	K		被度	群度
	種名	種名			種名	種名			種名	種名						
1	クロマツ		1	1	ケウバメガシ		5	4	シャシャンボ		1	1	オオバウマノズクサ		+	2
2					シャリンバイ		1	1	クチナシ		1	1	コバノタツナミ		+	2
3					シャシャンボ		1	1	トベラ		1	1	ヒトツバ		+	2
4					マルバグミ		1	1	ネズミモチ		1	1	マメヅタ		+	2
5					クロキ		+		クロキ		+		ノキシノブ		+	
6									オムラサキシキブ		+		ヤブラン		+	
7									イヌザンショウ		+		ヘクソカズラ		+	
8									ヒメユズリハ		+		ススキ		+	
9									ホルトノキ		+		コヤブラン		+	
10									ハマクサギ		+		ソナレノギク		+	
11									クロガネモチ		+		ノブドウ		+	
12													ツワブキ		+	

高木層にまばらにクロマツが抜け出し、亜高木層にはケウバメガシが高い被度で優占する。表土のうすい岩上に群落は形成されている。構成種数も少なく、また、ケウバメガシは胸高直径10cm前後のものが6~8本ねぎわから萌芽分枝している。かつて薪炭材としてくりかえし利用されてこのような樹形になったものと思われる。







## 植 生 基 本 調 査 表

群落名	アラカシ群落	海拔	110m									
調査地	坊津町博多, 車岳西山麓	方位	W									
調査日	平成 5 年 9 月 26 日	調査者	寺田 仁志, 満尾 正廣									
1 山頂部	ア斜面	風当	強 中 弱									
2 尾根部	イ平面	土壤	ポド性, 褐森									
3 中腹部	ウ凸地		赤, 黄, 黄褐色, アンド									
4 沢部	エ凹地		グライ, 擬グライ, 沖積									
5 谷部	オ台地		非固岩屑, 礫岩屑									
6 低地部	カ扇状地		土湿 乾, 適, 過湿									
階層構造	高 さ	植 被 率										
B <sub>1</sub> 高木層	15m	90%										
B <sub>2</sub> 亜高木層	8m	40%										
S 低木層	3m	40%										
K 草本層	0.5m	5%										
備考 調査面積 15m×15m ・急崖地 ・アラカシ 20cm, 2~6本萌芽												
	B <sub>1</sub>	被度	群度	B <sub>2</sub>	被度	群度	S	被度	群度	K	被度	群度
	種 名			種 名			種 名			種 名		
1	アラカシ	5	4	タイミンタチバナ	2	2	タイミンタチバナ	2	2	ナンカイイタチシダ	1	1
2	ヤマザクラ	1	1	ヤブツバキ	2	2	ヤブツバキ	2	2	タチシノブ	+	
3	ヒメユズリハ	1	1	アラカシ	1	1	ネズミモチ	1	1	ツユクサ	+	
4	ハゼノキ	1	1	トベラ	1	1	クチナシ	1	1	ツワブキ	+	
5				ヒメユズリハ	1	1	アラカシ	1	1	オオバウマノスズクサ	+	
6				ハマニンドウ	+		ハマクサギ	+		チヂミザサ	+	
7				ネズミモチ	+		ヤマザクラ	+		ヘクソカズラ	+	
8							ハマビワ	+		コバノカナワラビ	+	
9							オオムラサキシキブ	+		ナツフジ	+	
10							トベラ	+		シラタマカズラ	+	
11							ハクサンボク	+		キダチニンドウ	+	
12							ホルトノキ	+		ヤクシソウ	+	
13							ミサオノキ	+		ツルウメモドキ	+	
14							カカツガユ	+		シマイズセンリョウ	+	
15							ナワシログミ	+		スイカズラ	+	
16							シャシャンボ	+		マルバドコロ	+	
17							シャリンバイ	+				



乾性的なタブノキ林にかこまれた沿海地谷部の急崖地にアラカシが優占する。高木層にはヤマザクラ、ハゼノキ等の落葉広葉樹も混入するが、胸高直径20cm、樹高15mとすうっとのびた感がある。

構成種数は少なく、また、草本層にはツユクサ、オオバウマノスズクサ、チヂミザサ、ヘクソカズラ、キダチニンドウ、ヤクシソウ、スイカズラ、マルバドコロ等の陽性の草本、蔓性植物等が目だった。

# 植生基本調査表

群落名		ミミズバイースダジイ群集				海拔 350m						
調査地		知覧町荒岳				方位 S40° W						
調査日		平成 5 年 8 月 24 日		調査者		川原 勝征, 山崎 重喜						
1 山頂部		ア斜 面		風当 強 中 弱		備考 調査面積 10m×10m ・スダジイ 25cm						
2 尾根部		イ平 面		土壌 ボド性, 腐 森								
3 中腹部		ウ凸 地		赤, 黄, 黄褐色, アンド								
4 沢 部		エ凹 地		グライ, 擬グライ, 沖積								
5 谷 部		オ台 地		非固岩屑, 固岩屑								
6 低地部		カ扇状地		土湿 乾, 適, 湿, 過湿								
階層構造		高 さ		植 被 率								
B <sub>1</sub> 高木層		15m		80%								
B <sub>2</sub> 亜高木層		5m		60%								
S 低木層		1m		10%								
K 草本層		0.2m		1%								
	B <sub>1</sub>	被 度	群 度	B <sub>2</sub>	被 度	群 度	S	被 度	群 度	K	被 度	群 度
	種 名			種 名			種 名			種 名		
1	スダジイ	2	2	イスノキ	1	1	ハクサンボク	+		コバノカナワラビ	+	
2	イスノキ	+		ヤブツバキ	+		ヤブニッケイ	+		ツワブキ	+	
3	マテバシイ	+		ヒサカキ	+		コバンモチ	+		ベニシダ	+	
4	タブノキ	+		シキミ	+		タブノキ	+		ナンゴクカモメヅル	+	
5							イズセンリョウ	+				
6							サルトリイバラ	+				
7							シャシャンボ	+				
8							ヤマビワ	+				
9							ネズミモチ	+				
10							ヒサカキ	+				
11							クロキ	+				
12							タイミンタチバナ	+				
13							ハマクサギ	+				
14												



スダジイが多く、大きいものは高さ15m胸高直径25cmである。

また、イスノキ、タブノキ、マテバシイが高木となり、スダジイと合わせて第1層をおおっている。

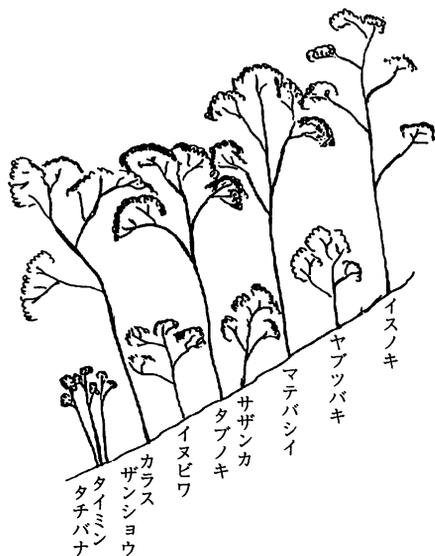
亜高木層はイスノキ、ヤブツバキ、ヒサカキ、シキミから形成されている。

低木層は13種を数えたがいずれも枝はほとんど茂っていない。

下草はほとんどなく4種のみである。

# 植生基本調査表

群落名	マテバシイ群落				海拔	300m						
調査地	川辺郡知覧町荒岳				方位	S40° W						
調査日	平成5年8月24日				調査者	川原 勝征, 山崎 重喜						
1 山頂部	ア斜面	風当	強中弱	備考 調査面積 10m×10m  ・マテバシイ 20cm								
2 尾根部	イ平面	土壤	ボド性, 礫森									
3 中腹部	ウ凸地		赤, 黄, 黄褐色, アンド									
4 沢部	エ凹地		グライ, 擬グライ, 沖積									
5 谷部	オ台地		非固岩屑, 固岩屑									
6 低地部	カ扇状地		土湿 乾, 適, 湿, 過湿									
階層構造		高さ	植被率									
B <sub>1</sub> 高木層		15m	80%									
B <sub>2</sub> 亜高木層		5m	60%									
S 低木層		2m	10%									
K 草本層		0.2m	5%									
	B <sub>1</sub>	被度	群度	B <sub>2</sub>	被度	群度	S	被度	群度	K	被度	群度
	種名			種名			種名			種名		
1	マテバシイ	1	1	ヤブツバキ	1	1	タイミンタチバナ	+		コバノカナワラビ	+	
2	イスノキ	1	1	タイミンタチバナ	1	1	ヤブニッケイ	+		マメヅタ	+	
3	カラスザンショウ	+		サザンカ	+		イヌビワ	+		オモト	+	
4	タブノキ	+		シャシャンボ	+		イズセンリョウ	+		ナツフジ	+	
5				ヒサカキ	+		ネズミモチ	+		ツワブキ	+	
6				イヌビワ	+		ヤブツバキ	+		テイカカズラ	+	
7							シキミ	+		ツルコウジ	+	
8							コウゾ	+		イタビカズラ	+	
9										キジョラン	+	
10										オオイタチシダ	+	
11										オニドコロ	+	
12												



39ページの場所から約50m下りた同一方位の斜面であるが、スダジイがなくなりマテバシイ、イスノキが優占種になっている。

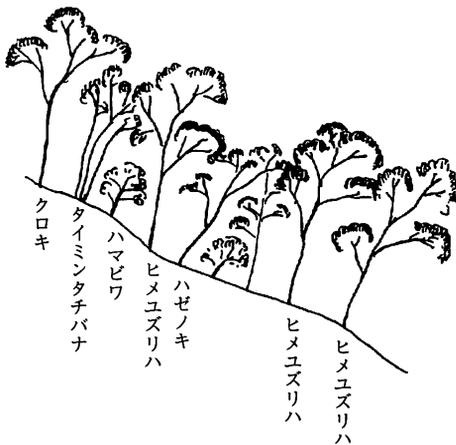
マテバシイの胸高直径は20cmになり、イスノキとともに高木層を形成している。

亜高木層はヤブツバキ、タイミンタチバナ、サザンカ、シャシャンボ、ヒサカキ、イヌビワからなり、特にヤブツバキとタイミンタチバナが多い。

低木層及び草本層はあまり発達していない。

# 植生基本調査表

群落名				海拔 80m								
調査地	川辺郡坊津町上之坊			方位 N50° W								
調査日	平成 5 年 8 月 27 日	調査者	川原 勝征, 山崎 重喜									
1 山頂部	ア斜面	風当	強中弱	備考								
2 尾根部	イ平面	土壤	ボド性, 褐森	調査面積 10m×10m								
3 中腹部	ウ凸地		赤, 黄, 黄褐色, アンド	・ヒメユズリハ 10cm								
4 沢部	エ凹地		グライ, 擬グライ, 沖積									
5 谷部	オ台地		非固岩屑, 固岩屑									
6 低地部	カ扇状地		土湿 乾, 適, 湿, 過湿									
階層構造	高さ	植被率										
B <sub>1</sub> 高木層	_____m	_____%										
B <sub>2</sub> 亜高木層	_____6m	_____90%										
S 低木層	_____2m	_____20%										
K 草本層	_____0.2m	_____5%										
	B <sub>1</sub>	被度	群度	B <sub>2</sub>	被度	群度	S	被度	群度	K	被度	群度
	種名			種名			種名			種名		
1				ヒメユズリハ	2	1	ハマビワ	1	1	ホソバカナワラビ	+	
2				クロキ	1	1	タイミンタチバナ	1	1	ツワブキ	+	
3				ハゼノキ	+		トベラ	+		ノブドウ	+	
4				タイミンタチバナ	+		ハクサンボク	+		ナツフジ	+	
5				ヤブニッケイ	+		ネズミモチ	+		ヤブラン	+	
6				スイカズラ	+		ヤブニッケイ	+		キジョラン	+	
7				モチノキ	+		クロキ	+		カエデ	+	
8				モッコク	+		クチナシ	+		オオバウマノスズクサ	+	
9							ムラサキシキブ	+				
10							イヌビワ	+				
11												



海岸に近い尾根部で風が強いため高木層は発達していない。

亜高木層はヒメユズリハとクロキが多く、ヒメユズリハは胸高直径10cmである。

低木層はハマビワとタイミンタチバナが多い。

草本層はあまり発達していない。

## 植 生 基 本 調 査 表

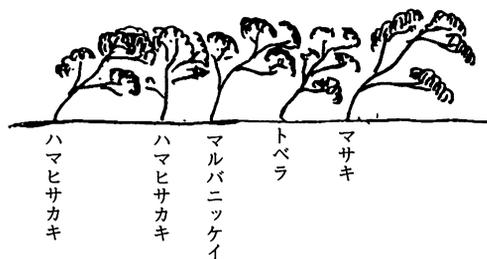
群落名	オニヤブソテツ-ハマビワ群集	海拔	10m									
調査地	枕崎市火の神公園	方位										
調査日	平成 5 年 8 月 27 日	調査者	川原 勝征, 山崎 重喜									
1 山頂部	ア斜面	風当	強 中 弱									
2 尾根部	イ平面	土壌	ポド性, 藪森									
3 中腹部	ウ凸地		赤, 黄, 黄褐色, アンド									
4 沢部	エ凹地		グライ, 擬グライ, 沖積									
5 谷部	オ台地		非固岩屑, 固岩屑									
6 低地部	カ扇状地		土湿 乾, 適, 湿, 過湿									
階層構造	高 さ	植 被 率										
B <sub>1</sub> 高木層	_____ m	_____ %										
B <sub>2</sub> 亜高木層	_____ m	_____ %										
S 低木層	_____ 4m	_____ 90%										
K 草本層	_____ 0.2m	_____ 30%										
	B <sub>1</sub>	被 度	群 度	B <sub>2</sub>	被 度	群 度	S	被 度	群 度	K	被 度	群 度
	種 名			種 名			種 名			種 名		
1							ハマヒサカキ	2	2	オニヤブソテツ	+	
2							マルバニッケイ	1	1	ツワブキ	+	
3							マサキ	+		ヤブラン	+	
4							ヤブニッケイ	+		サルトリイバラ	+	
5							ネズミモチ	+		ヘクソカズラ	+	
6							ハマビワ	+		オイランアザミ	+	
7							ヤブツバキ	+		フウトウカズラ	+	
8							ツルグミ	+		ボタンボウフウ	+	
9							トベラ	+		ギシギシ	+	
10												

海岸に面した平地で、強風のためすべての木本は陸の方へ向って傾いている。

高木層・亜高木層はない。

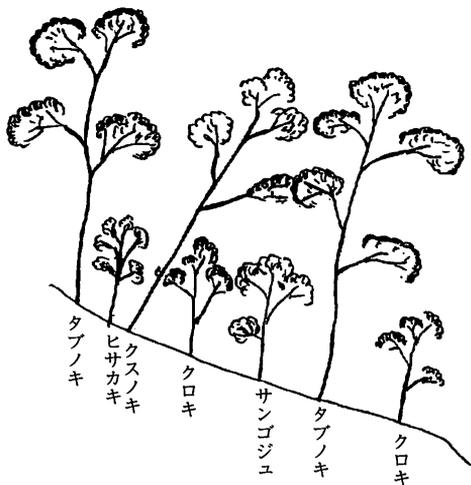
低木層はハマヒサカキの植被率が高く、マルバニッケイが出現している。そして、ハマヒサカキ・マルバニッケイの間を海岸性のマサキやハマビワがうめている。

草本層はオニヤブソテツ、オイランアザミ等の海岸性の草本が少し発達している。



# 植生基本調査表

群落名		ムサシアブミータブ群落				海拔		50m	
調査地		枕崎市立神				方位		N10° E	
調査日		平成5年 8月27日		調査者		川原 勝征, 山崎 重喜			
1 山頂部		ア斜面		風当 強 中弱		備考 調査面積 10m×10m ・タブノキ 25cm ・クスノキ 20cm			
2 尾根部		イ平面		土壤 ボド性, 褐森					
3 樹腹部		ウ凸地		赤, 黄, 黄褐色, アンド					
4 沢部		エ凹地		グライ, 擬グライ, 沖積					
5 谷部		オ台地		非固岩屑, 固岩屑					
6 低地部		カ扇状地		土湿 乾, 適, 湿, 過湿					
階層構造		高さ		植被率					
B <sub>1</sub> 高木層		10m		70%					
B <sub>2</sub> 亜高木層		5m		50%					
S 低木層		2m		20%					
K 草本層		0.2m		10%					
		B <sub>1</sub>		B <sub>2</sub>		S		K	
		種	名	被度	群度	種	名	被度	群度
1		タブノキ		1	1	クロキ		1	1
2		クスノキ		+		シロダモ		+	
3						ヤブツバキ		+	
4						カクレミノ		+	
5						イズセンリョウ		+	
6						ヒサカキ		+	
7						マサキ		+	
8						ヤツデ		+	
9						ハマビワ		+	
10						ヤブニッケイ		+	
11						クロキ		+	
12						イヌビワ		+	
13						クチナシ		+	
14						ムラサキシキブ		+	
15						ハマヒサカキ		+	



胸高直径20~25cmのタブノキが点在し、それらの間に胸高直径20cmほどのクスノキがあつて高木層を形成している。

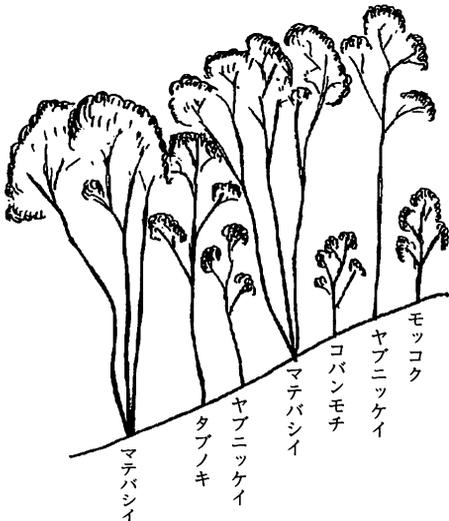
亜高木層はクロキを主にサングジュ、ヒメユズリハ、ヒサカキ等が形成している。

低木層は14種を数えたがあまり発達していない。

草本層はそれほど多くないが、なかではホソバカナワラビがかなり繁茂している。

## 植生基本調査表

群落名	ハクサンボク-マテバシイ群落			海拔	280m							
調査地	枕崎市国見岳			方位	S 20° W							
調査日	平成 5 年 8 月 28 日			調査者	川原 勝征, 山崎 重喜							
1 山頂部	ア斜面	風当	強中弱	備考 調査面積 10m×10m  ・マテバシイ 25cm								
2 尾根部	イ平面	土壤	ボド性, 褐森									
3 中腹部	ウ凸地		赤, 黄, 黄褐色, アンド									
4 沢部	エ凹地		グライ, 擬グライ, 沖積									
5 谷部	オ台地		非固岩屑, 固岩屑									
6 低地部	カ扇状地		土湿 乾, 適, 湿, 過湿									
階層構造		高さ	植被率									
B <sub>1</sub> 高木層		12m	90%									
B <sub>2</sub> 亜高木層		5m	20%									
S 低木層		2m	10%									
K 草本層		0.2m	5%									
	B <sub>1</sub>	被度	群度	B <sub>2</sub>	被度	群度	S	被度	群度	K	被度	群度
	種名			種名			種名			種名		
1	マテバシイ	2	1	ネズミモチ	+		ハクサンボク	+		ツワブキ	+	
2	タブノキ	+		ヤブニッケイ	+		ムラサキシキブ	+		ヒメバライチゴ	+	
3	ヤブニッケイ	+		コバンモチ	+		ヤブニッケイ	+		ツ	+	
4				クチナシ	+		イヌビワ	+		サルトリイバラ	+	
5				クロキ	+		カラスザンショウ	+		チザミザサ	+	
6				モッコク	+		ヤツデ	+		ハナミョウガ	+	
7							イヌザンショウ	+		ヤクシソウ	+	
8							クサギ	+		ベニバナボロギク	+	
9							ネズミモチ	+		ヤマノイモ	+	
10							クロキ	+		オニドコロ	+	
11							コガクウツギ	+		ヘクソカズラ	+	
12							ハゼ	+		オトコエシ	+	
13							シャリンバイ	+		スイカズラ	+	
14							コバンノキ	+		ヒヨドリジョウゴ	+	
15							トラノキ	+		カエデコロ	+	
16							ヒサカキ	+		ダンドボロギク	+	
17							ハマクサギ	+		シュンラン	+	
18							ゴンズイ	+		ノブドウ	+	
19							アカメガシワ	+		ホウライカズラ	+	
20							ヤブムラサキ	+		ツルウメモドキ	+	
21							カンコノキ	+		オオバマノスズサ	+	
22												



高木層は胸高直径25cmほどのマテバシイがほとんどを占めている。これらのマテバシイは根際から数本が分枝しているものが多い。これは、薪炭用に伐採されたあとの萌芽が成長したものであるからと思われる。

亜高木層はあまり発達していない。

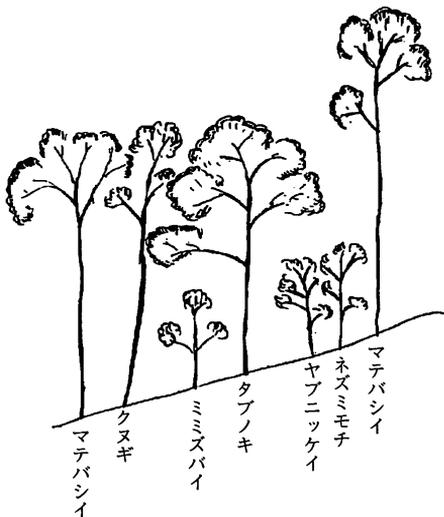
低木層及び草本層も種類はかなりあるがほとんど発達していない。

## 植生基本調査表

群落名	ハクサンボク-マテバシイ群落	海拔 290m	
調査地	枕崎市下山岳	方位 S10° W	
調査日	平成5年8月28日	調査者	川原 勝征, 山崎 重喜
1 山頂部	ア斜面	風当 強中弱	備考 調査面積 10m×10m  ・マテバシイ 25cm ・クスギ 22cm
2 尾根部	イ平面	土壌 ボド性, 礫森	
3 中腹部	ウ凸地	赤, 黄, 黄褐色, アンド	
4 沢部	エ凹地	グライ, 擬グライ, 沖積	
5 谷部	オ台地	非固岩屑, 固岩屑	
6 低地部	カ扇状地	土湿 乾, 適, 湿, 過湿	
階層構造		高さ	植被率
B <sub>1</sub> 高木層	12m	60%	
B <sub>2</sub> 亜高木層	5m	30%	
S 低木層	2m	10%	
K 草本層	0.2m	5%	

	B <sub>1</sub>		被度	群度	B <sub>2</sub>		被度	群度	S		被度	群度	K		被度	群度
	種名	種名			種名	種名										
1	マテバシイ		1	1	アラカシ		+		イヌビワ		+		ムサシアブミ		+	
2	タブノキ		+		ヒメユズリハ		+		ムラサキシキブ		+		スイカズラ		+	
3	クスギ		+		ヒサカキ		+		シャシャンボ		+		チヂミザサ		+	
4	ヤマザクラ		+		ネズミモチ		+		ヤブニッケイ		+		ヤブガラシ		+	
5	ヤマモモ		+		ヤブニッケイ		+		タブノキ		+		ノブドウ		+	
6	スダジイ		+		ミミズバイ		+		カラスザンショウ		+		ツワブキ		+	
7					クロキ		+		クサギ		+		ヘクソカズラ		+	
8									ネズミモチ		+		ハナミョウガ		+	
9									ハクサンボク		+		サルトリイバラ		+	
10									ネムノキ		+		オオバマノズクサ		+	
11									エゴノキ		+		ハスノハカズラ		+	
12									コバンモチ		+		オトコエシ		+	
13									アオモジ		+		カラスウリ		+	
14									ゴンズイ		+		キランソウ		+	
15									クロキ		+		ツボクサ		+	
16									コバンノキ		+		ホウロクイチゴ		+	
17													フユイチゴ		+	
18													ホラシノブ		+	
19																



高木層はマテバシイを中心にタブノキ、スダジイ、クスギ、ヤマザクラ、ヤマモモ等で形成されているが、植被率はやや低く林内は明るい。

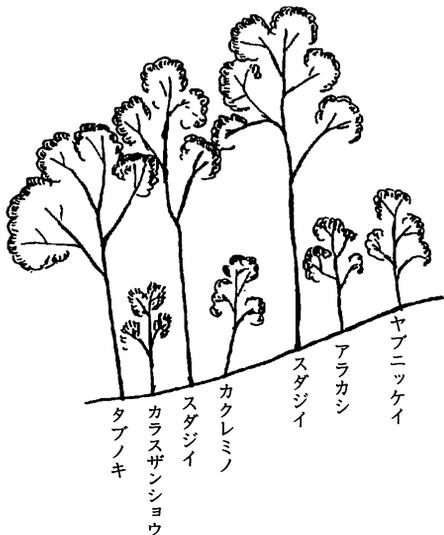
そのため、亜高木層や低木層もヤブニッケイ、ネズミモチ、クロキ、ヒサカキ等よく発達している。

草本層はあまり発達していない。

近くにはかなり大きなスダジイも見られた。

# 植生基本調査表

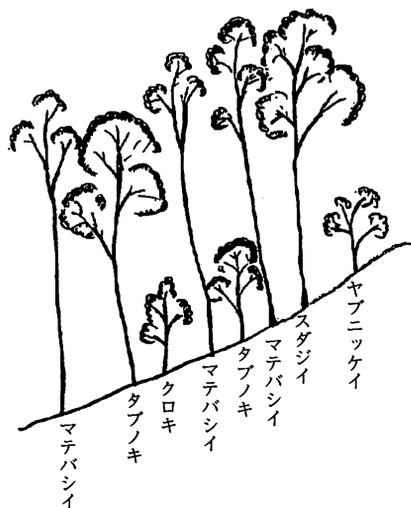
群落名	ミミズバイースダジイ群集				海拔	230m						
調査地	枕崎市園見岳				方位	N75° w						
					傾斜	15°						
調査日	平成5年8月29日		調査者	川原 勝征, 山崎 重喜								
1 山頂部	ア斜面	風当	強中弱	備考 調査面積 10m×10m ・スダジイ 25cm								
2 尾根部	イ平面	土壤	ボド性, 褐森									
3 中腹部	ウ凸地		赤, 黄, 黄褐色, アンド									
4 沢部	エ凹地		グライ, 擬グライ, 沖積									
5 谷部	オ台地		非固岩屑, 固岩屑									
6 低地部	カ扇状地		土湿 乾, 適, 湿, 過湿									
階層構造	高さ	植被率										
B <sub>1</sub> 高木層	12m	80%										
B <sub>2</sub> 亜高木層	6m	60%										
S 低木層	2m	20%										
K 草本層	0.2m	10%										
	B <sub>1</sub>	被度	群度	B <sub>2</sub>	被度	群度	S	被度	群度	K	被度	群度
	種名			種名			種名			種名		
1	スダジイ	1	1	コナラ	+		ハクサンボク	+		ウラジロ	+	
2	タブノキ	+		カラスザンショウ	+		イヌビワ	+		ツワブキ	+	
3				ヤブニッケイ	+		タイミンタチバナ	+		オバウミノスズク	+	
4				アラカシ	+		ヤツデ	+		フユイチゴ	+	
5				ヒメユズリハ	+		ネズミモチ	+		カニクサ	+	
6				クスノキ	+		ミミズバイ	+		ホシダ	+	
7				カクレミノ	+		モッコク	+		サルトリイバラ	+	
8							ヒサカキ	+		オオイタチシダ	+	
9							ヤブニッケイ	+		ヘクソカズラ	+	
10							クロキ	+		ヤクシマアカシュラン	+	
11							クサギ	+		ノブドウ	+	
12							ゴンズイ	+		テイカカズラ	+	
13							ムラサキシキブ	+		オキナワシタキヅル	+	
14										サカキカズラ	+	
15												



高さ10~12m, 胸高直径20~25cmのスダジイが大きく枝を広げており林内はやや暗い。カクレミノ, ヤブニッケイ, ヒメユズリハ等亜高木層もよく発達している。低木層及び草本層は発達していない。

## 植生基本調査表

群落名	ハクサンボク-マテバシイ群落	海拔 400m										
調査地	川辺郡川辺町屋敷平	方位 S 30° W										
調査日	平成 5 年 8 月 29 日	傾斜 25°										
調査者	川原 勝征, 山崎 重喜											
1 山頂部	ア斜面	風当 強 中 弱	備考 調査面積 10m×10m  ・マテバシイ 15cm									
2 尾根部	イ平面	土壤 ボド性, 藪森										
3 中腹部	ウ凸地	赤, 黄, 黄褐色, アンド										
4 沢部	エ凹地	グライ, 擬グライ, 沖積										
5 谷部	オ台地	非固岩屑, 固岩屑										
6 低地部	カ扇状地	土湿 乾, 適, 湿, 過湿										
階層構造	高さ	植被率										
B <sub>1</sub> 高木層	15m	70%										
B <sub>2</sub> 亜高木層	5m	40%										
S 低木層	2m	20%										
K 草本層	0.2m	5%										
	B <sub>1</sub>	被度	群度	B <sub>2</sub>	被度	群度	S	被度	群度	K	被度	群度
	種名			種名			種名			種名		
1	マテバシイ	2	2	クロキ	+		サカキ	+		フユイチゴ	+	
2	タブノキ	+		ヤブニッケイ	+		タブノキ	+		オトコエシ	+	
3	スタジイ	+		ヤブツバキ	+		ヤブニッケイ	+		カラスウリ	+	
4				タブノキ	+		ネズミモチ	+		オニドコロ	+	
5							ハクサンボク	+		ナツフジ	+	
6							ヒサカキ	+		ヤブマオ	+	
7							アカメガシワ	+		コゴメスゲ	+	
8							カラスザンショウ	+		ツワブキ	+	
9							ムラサキシキブ	+		スイカズラ	+	
10							コバンノキ	+		ハナミョウガ	+	
11							シロダモ	+		アマチャヅル	+	
12							モッコク	+		ヒヨドリバナ	+	
13							センリョウ	+		ヒメバライチゴ	+	
14							モチノキ	+		チヂミザサ	+	
15							アカメガシワ	+		ベニバナボロギク	+	
16							ネムノキ	+				
17							クサギ	+				
18							アオキ	+				
19							アオモジ	+				
20							ムベ	+				
21							フウトウカズラ	+				



胸高直径は15cm位と小さいが、高さは15mに達するマテバシイが多数生育している。

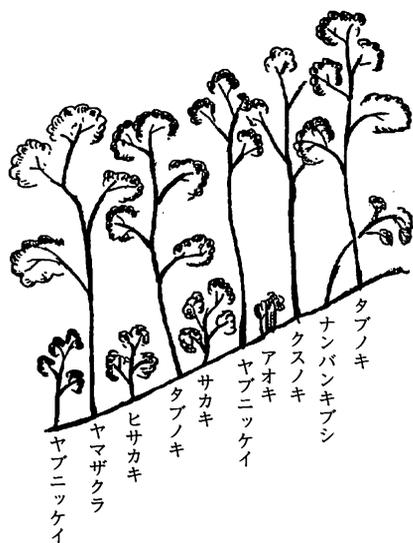
しかし、ほとんど枝を張っていないため林内は明るくなっている。

そのため、亜高木層もクロキ、タブノキ、ヤブツバキ、ヤブニッケイがよく枝を広げている。

また、低木層や草本層もよく発達している。

## 植生基本調査表

群落名	ムサシアブミータブノキ群集	海拔	430m
調査地	顕娃町唐牧岳	方位	N50° W
調査日	平成5年8月30日	調査者	川原 勝征, 山崎 重喜
1 山頂部	ア斜面	風当	強中弱
2 尾根部	イ平面	土壤	ポド性, 藪森
3 中腹部	ウ凸地		赤, 黄, 黄褐色, アンド
4 沢部	エ凹地		グライ, 擬グライ, 沖積
5 谷部	オ台地		非固岩屑, 固岩屑
6 低地部	カ扇状地		土湿 乾, 適, 湿, 過湿
階層構造		高さ	植被率
B <sub>1</sub> 高木層		12m	90%
B <sub>2</sub> 亜高木層		6m	40%
S 低木層		2m	20%
K 草本層		0.2m	20%
備考 調査面積 10m×10m ・クスノキ 20cm ・タブノキ 18cm			
	B <sub>1</sub>	被度	群度
	種名		
	B <sub>2</sub>	被度	群度
	種名		
	S	被度	群度
	種名		
	K	被度	群度
	種名		
1	タブノキ	2	2
2	クスノキ	+	
3	ヤマザクラ	+	
4	カラスザンショウ	+	
5	エゴノキ	+	
6	ヤブニッケイ	+	
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			



タブノキを中心にイスノキ, ヤマザクラ, ヤブニッケイが高木層を形成し, 植被率はかなり高い。

亜高木層もサカキ, ヤブニッケイ等よく発達している。

低木層では特にアオキが叢生しているのが目立っている。

草本層ではやや暗い林内であるにもかかわらず, ウラジロが群生しているのが目立っている。

# 昆虫類調査結果

- 1 期間 平成5年4月～12月
- 2 調査者 永田俊行
- 3 調査地

## (1) 金峰町金峰山

### アゲハチョウ科

モンキアゲハ, クロアゲハ, ジャコウアゲハ, カラスアゲハ, ミヤマカラスアゲハ,  
ナガサキアゲハ, キアゲハ, アゲハ, アオスジアゲハ

### シロチョウ科

モンシロチョウ, モンキチョウ, ツマグロキチョウ, キチョウ

### シジミチョウ科

ムラサキツバメ, ムラサキシジミ, ベニシジミ, ツバメシジミ, ウラギンシジミ, ウラ  
ナミシジミ, ルリシジミ, サツマシジミ, ヤマトシジミ

### マダラチョウ科

アサギマダラ

### タテハチョウ科

ミドリヒョウモン, メスグロヒョウモン, ツマグロヒョウモン, コミスジ, イチモンジ  
チョウ, キタテハ, ルリタテハ, ヒメアカタテハ, アカタテハ, ゴマダラチョウ, コム  
ラサキ, イシガケチョウ, スミナガシ

### ジャノメチョウ科

クロコノマチョウ, ウラナミジャノメ, ヒメジャノメ, クロヒカゲ, サトキマダラヒカ  
ゲ

### セセリチョウ科

イチモンジセセリ, チャバネセセリ, アオバセセリ, キマダラセセリ

### コガネムシ科

カブトムシ, カナブン, アオカナブン, シロテンハナムグリ, コアオハナムグリ, ヒメ  
アシナガコガネ

### クワガタムシ科

ヒラタクワガタ, ノコギリクワガタ, コクワガタ

### カミキリムシ科

ノコギリカミキリ, ゴマダラカミキリ, ホソカミキリ, ラミーカミキリ

### テントウムシ科

ニジュウヤホシテントウ, ナナホシテントウ, カメノコテントウ

### ハンミョウ科

ハンミョウ

### オサムシ科

アオオサムシ, マイマイカブリ

シデムシ科

クロシデムシ, オオヒラタシデムシ

タマムシ科

ヤマトタマムシ

コメツキムシ科

サビキコリ, シモフリコメツキ

ハムシ科

クロウリハムシ, ウリハムシ

バッタ科

トノサマバッタ, ショウリョウバッタ, ヒシバッタ, オンブバッタ

ケラ科

ケラ

コオロギ科

エンマコオロギ, マツムシ

キリギリス科

クツワムシ

ゴキブリ科

サツマゴキブリ

オニヤンマ科

オニヤンマ

ヤンマ科

ギンヤンマ

トンボ科

シオヤトンボ, オオシオカラトンボ, マユタテアカネ, ショウジョウトンボ, アキアカネ, ネキトンボ

セミ科

ニイニイゼミ, クマゼミ, アブラゼミ, ツクツクボウシ

ヨコバイ科

ツマグロヨコバイ

カメムシ科

アオクサカメムシ

オオホシカメムシ科

ヒメホシカメムシ

スズメバチ科

スズメバチ, キアシナガバチ

ミツバチ科

クマバチ

ムシヒキアブ科

シオヤアブ

ガガンボ科

ベッコウガガンボ

カ科

アカイエカ

## (2) 加世田市長屋山

アゲハチョウ科

モンキアゲハ、クロアゲハ、ジャコウアゲハ、カラスアゲハ、ミヤマカラスアゲハ、ナガサキアゲハ、ミカドアゲハ、キアゲハ、アゲハ、アオスジアゲハ

シロチョウ科

モンシロチョウ、モンキチョウ、ツマグロキチョウ、キチョウ、ツマベニチョウ

シジミチョウ科

ムラサキツバメ、ムラサキシジミ、ベニシジミ、ツバメシジミ、ウラギンシジミ、ウラナミシジミ、ルリシジミ、サツマシジミ、ヤクシマルリシジミ、ヤマトシジミ

マダラチョウ科

アサギマダラ

タテハチョウ科

ツマグロヒョウモン、コムスジ、イチモンジチョウ、キタテハ、ルリタテハ、タテハモドキ、ヒメアカタテハ、アカタテハ、ゴマダラチョウ、コムラサキ、スミナガシ、イシガケチョウ

ジャノメチョウ科

クロコノマチョウ、ウラナミジャノメ、ヒメジャノメ、クロヒカゲ

セセリチョウ科

イチモンジセセリ、チャバネセセリ、アオバセセリ

コガネムシ科

カブトムシ、カナブン、アオカナブン、シロテンハナムグリ、コアオハナムグリ、コフキコガネ、アオドウガネ、ヒメアシナガコガネ、マメコガネ

クワガタムシ科

ミヤマクワガタ、ヒラタクワガタ、ノコギリクワガタ、コクワガタ

カミキリムシ科

ノコギリカミキリ、ゴマダラカミキリ

テントウムシ科

ナナホシテントウ、カメノコテントウ

ハンミョウ科

ハンミョウ

オサムシ科

アオオサムシ, マイマイカブリ

シデムシ科

クロシデムシ, オオヒラタシデムシ

タマムシ科

ヤマトタマムシ

コメツキムシ科

サビキコリ, シモフリコメツキ

ハムシ科

クロウリハムシ, ウリハムシ

バッタ科

トノサマバッタ, ショウリョウバッタ, ヒシバッタ, オンブバッタ

ケラ科

ケラ

コオロギ科

エンマコオロギ, オカメコオロギ, スズムシ, マツムシ

キリギリス科

クツワムシ, ウマオイ

ゴキブリ科

サツマゴキブリ

イトトンボ科

リュウキュウベニイトトンボ

モノサシトンボ科

モノサシトンボ

カワトンボ科

カワトンボ, ハグロトンボ

オニヤンマ科

オニヤンマ

ヤンマ科

マルタンヤンマ, ギンヤンマ

トンボ科

シオヤトンボ, オオシオカラトンボ, マユタテアカネ, アキアカネ, コシアキトンボ,  
ハラビロトンボ

セミ科

ニイニイゼミ, クマゼミ, アブラゼミ, ツクツクボウシ

ヨコバイ科

ツマグロヨコバイ

カメムシ科

アオクサカメムシ

オオホシカメムシ科

ヒメホシカメムシ

スズメバチ科

スズメバチ, キアシナガバチ

ミツバチ科

クマバチ

ムシヒキアブ科

シオヤアブ

ガガンボ科

ベッコウガガンボ

(3) 知覧町池之河内

アゲハチョウ科

モンキアゲハ, クロアゲハ, ジャコウアゲハ, カラスアゲハ, ミヤマカラスアゲハ, ナガサキアゲハ, キアゲハ, アゲハ, アオスジアゲハ

シロチョウ科

モンシロチョウ, モンキチョウ, ツマグロキチョウ, キチョウ

シジミチョウ科

ムラサキツバメ, ムラサキシジミ, ベニシジミ, ツバメシジミ, ウラギンシジミ, ウラナミシジミ, ルリシジミ, サツマシジミ, ヤマトシジミ

マダラチョウ科

アサギマダラ

タテハチョウ科

ミドリヒョウモン, メスグロヒョウモン, ツマグロヒョウモン, コミスジ, イチモンジチョウ, キタテハ, ルリタテハ, ヒメアカタテハ, アカタテハ, ゴマダラチョウ, コムラサキ, スミナガシ, イシガケチョウ

ジャノメチョウ科

クロコノマチョウ, ウラナミジャノメ, ヒメジャノメ, クロヒカゲ, サトキマダラヒカゲ

セセリチョウ科

イチモンジセセリ, チャバネセセリ, アオバセセリ, キマダラセセリ

コガネムシ科

カブトムシ, カナブン, アオカナブン, シロテンハナムグリ, コアオハナムグリ, ヒメアシナガコガネ, マメコガネ

クワガタムシ科

ヒラタクワガタ, ノコギリクワガタ, コクワガタ

カミキリムシ科

ノコギリカミキリ, ゴマダラカミキリ, ホソカミキリ, ラミーカミキリ  
テントウムシ科

ニジュウヤホシテントウ, ナナホシテントウ, カメノコテントウ

ハンミョウ科

ハンミョウ

オサムシ科

アオオサムシ, マイマイカブリ

シデムシ科

クロシデムシ, オオヒラタシデムシ

タマムシ科

ヤマトタマムシ

コメツキムシ科

サビキコリ, シモフリコメツキ

ハムシ科

クロウリハムシ, ウリハムシ

バッタ科

トノサマバッタ, ショウリョウバッタ, ヒシバッタ, オンブバッタ

ケラ科

ケラ

コオロギ科

エンマコオロギ, マツムシ

キリギリス科

クツワムシ

ゴキブリ科

サツマゴキブリ

オニヤンマ科

オニヤンマ

ヤンマ科

ギンヤンマ

トンボ科

シオヤトンボ, オオシオカラトンボ, マユタテアカネ, ショウジョウトンボ, アキアカネ, ネキトンボ

セミ科

ニイニイゼミ, クマゼミ, アブラゼミ, ツクツクボウシ

ヨコバイ科

ツماغロヨコバイ

カメムシ科

アオクサカメムシ

オオホシカメムシ科

ヒメホシカメムシ

スズメバチ科

スズメバチ, キアシナガバチ

ミツバチ科

クマバチ

ムシヒキアブ科

シオヤアブ

ガガンボ科

ベッコウガガンボ

カ科

アカイエカ

(4) 坊津町坊岬

アゲハチョウ科

モンキアゲハ, クロアゲハ, ジャコウアゲハ, カラスアゲハ, ミヤマカラスアゲハ, ナガサキアゲハ, ミカドアゲハ, キアゲハ, アゲハ, アオスジアゲハ

シロチョウ科

モンシロチョウ, モンキチョウ, ツماغロキチョウ, キチョウ, ツマベニチョウ

シジミチョウ科

ムラサキツバメ, ムラサキシジミ, ベニシジミ, ツバメシジミ, ウラギンシジミ, ウラナミシジミ, ルリシジミ, サツマシジミ, ヤクシマルリシジミ, ヤマトシジミ

マダラチョウ科

アサギマダラ, カバマダラ

タテハチョウ科

コミスジ, ツماغロヒョウモン, イチモンジチョウ, キタテハ, ルリタテハ, タテハモドキ, ヒメアカタテハ, アカタテハ, メスアカムラサキ, アオタテハモドキ, ゴマダラチョウ, イシガケチョウ, リュウキュウムラサキ

ジャノメチョウ科

クロクノマチョウ, ウラナミジャノメ, ヒメジャノメ, クロヒカゲ

セセリチョウ科

イチモンジセセリ, チャバネセセリ, アオバセセリ

コガネムシ科

カブトムシ, カナブン, アオカナブン, シロテンハナムグリ, コアオハナムグリ, ヒメ  
コフキコガネ, アオドウガネ

クワガタムシ科

ヒラタクワガタ, ノコギリクワガタ, コクワガタ

カミキリムシ科

ノコギリカミキリ, ゴマダラカミキリ, ホソカミキリ

テントウムシ科

ニジュウヤホシテントウ, ナナホシテントウ, カメノコテントウ

ハンミョウ科

ハンミョウ

オサムシ科

アオオサムシ, マイマイカブリ

シデムシ科

クロシデムシ, オオヒラタシデムシ

タマムシ科

ヤマトタマムシ

コメツキムシ科

サビキコリ, シモフリコメツキ

ハムシ科

クロウリハムシ, ウリハムシ

バッタ科

トノサマバッタ, ショウリョウバッタ, ヒシバッタ, オンブバッタ

ケラ科

ケラ

コオロギ科

エンマコオロギ, オカメコオロギ, スズムシ, マツムシ

キリギリス科

クツワムシ

ゴキブリ科

サツマゴキブリ

カワトンボ科

ハグロトンボ

オニヤンマ科

オニヤンマ

トンボ科

シオヤトンボ, オオシオカラトンボ, マユタテアカネ, アキアカネ, コシアキトンボ  
セミ科

ニイニイゼミ, クマゼミ, アブラゼミ, ツクツクボウシ

ヨコバイ科

ツマグロヨコバイ

カメムシ科

アオクサカメムシ

オオホシカメムシ科

ヒメホシカメムシ

スズメバチ科

スズメバチ, キアシナガバチ

ミツバチ科

クマバチ

ムシヒキアブ科

シオヤアブ

ガガンボ科

ベッコウガガンボ

# 鳥 類 調 査 結 果

## 鳥 類 調 査 票

平成 5 年 8 月 19 日  
調査者 (柳田一郎, 直子)

調 査 地	喜入町指宿スカイライン沿線					
調査方法	定点 ( 1 時間 ) + ライセンス				天候	雨のち曇
種 名	羽 数	計	種 名	羽 数	計	
コゲラ	1	1	キジバト	2	2	
ツバメ	30+	多	ハシブトガラス	6	6	
アマツバメ	11+	多	ヒヨドリ	3	3	
ヤマガラ	9	9	カケス	1	1	
シジュウカラ	9	3	トビ	1	1	
合 計	羽数	67以上	種	10		

指宿スカイラン上を、喜入、鹿児島市境から喜入カントリークラブ上の自然林部分にて調査、日石喜入基地真上の展望所を定位観測し、その南北道路上 2 km ずつをライセンスした。

午前中は相変わらず雷雨で、まったく調査にならず。午後の雨が上がってから何とか調査になる。ライセンス時は、周辺林道内にも立ち入るが、天気のためかいまひとつ。

ただし、ツバメの乱舞 (路上 5 m くらい) とアマツバメの乱舞 (山頂、尾根以上の高度) は数多かった。渡りの直前であり、栄養をつけているのか……とも思う。同一と思われる個体は計算しなかったつもりだが、まだ多かったかもしれない。

# 鳥 類 調 査 票

平成 5 年 8 月 29 日

調査者 (柳田一郎, 直子)

調査地	金峰町金峰山					
調査方法	定点 (山頂駐車場) + ライセンス				天候	晴
種 名	羽 数	計	種 名	羽 数	計	
ヤマガラ	4	4	キジバト (声のみ)	(1)	(1)	
ヤマガラ (声のみ)	(7)	(7)	コゲラ	1	1	
シジュウカラ	6	6	ハシブトガラス	2	2	
シジュウカラ (声のみ)	(4)	(4)	ツバメ	2	2	
キジバト	1	1				
合 計	羽数	28	種	6		
<p>当会会員で地元の小園氏は、前日に以下も確認した旨報告を受けました。</p> <p>エゾビタキ     1</p> <p>カケス         1</p> <p>サシバ         1 (繁殖個体と考えられる。)</p> <p>※ コース</p> <p>   駐車場～西展望台～社務所～神社～山頂～東展望台～</p> <p>   野鳥の森～駐車場 (定点)</p>						

# 鳥 類 調 査 票

平成 5 年 9 月 15 日

調査者 (柳 田 一 郎)

調査地	加世田市長屋山					
調査方法	定点 (山頂公園展望台) + 登山道ライセンス				天候	曇一時雨晴
種 名	羽 数	計	種 名	羽 数	計	
トビ	3	3	ヒヨドリ	2	2	
ハシブトガラス	4	4	コゲラ	1	1	
ハシボソガラス	7	7	シジュウカラ (声のみ)	(1)	(1)	
モズ	1	1				
合 計	羽数	19	種	7		
<p>金峰山頂におけるアカハラダカの渡りを観測、調査するつもりであったが、登山道の状態が悪く、自動車での登山を断念したため、長屋山へ変更調査した。</p> <p>全般に曇りのため眺望は悪く、霧が出たり雲が出たりして調査しにくかった。また、森林は山頂レーダーサイト付近で人工林が多く、自然林が少なかったため鳥相は貧弱である。ただし、モズが出現した。</p> <p>なお、アカハラダカの渡りは確認できなかった。</p>						

# 鳥 類 調 査 票

平成 5 年 10 月 9 日

調査者 (柳田一郎, 直子)

調査地	金峰町金峰山					
調査方法	定点 + ライセンサス				天候	晴
種 名	羽 数	計	種 名	羽 数	計	
サシバ	338	338	コゲラ	1	1	
ヤマガラ	4	4	コゲラ (声のみ)	( 4)	( 4)	
ヤマガラ (声のみ)	( 4)	( 4)	メジロ	7	7	
シジュウカラ	6	6	トビ	10	10	
シジュウカラ (声のみ)	( 6)	6	エナガ	4	4	
キビタキsp	2	2	エナガ (声のみ)	( 3)	( 3)	
キビタキsp (声のみ)	( 2)	( 2)	ハチクマ	5	5	
ハシブトガラス	7	7				
ハシブトガラス (声のみ)	( 6)	6				
合 計	羽数	409	種	10		
<p>アサギマダラ 3 頭がヒラヒラ通過していく。渡りか？ 名物のハシブトガラスがいて、いつも高笑いをする。</p>						

# 鳥 類 調 査 票

平成 5 年 10 月 10 日

調査者 (柳田一郎, 直子)

調査地	金峰町金峰山					
調査方法	定点 (山頂駐車場)				天候	晴
種 名	羽 数	計	種 名	羽 数	計	
サシバ	1,342	1,342	カケス	1	1	
ツミ	4	4	カケス (声のみ)	( 1 )	( 1 )	
ハチクマ	8	8	ホオジロ	1	1	
アカハラダカ	3	3	ホオジロ (声のみ)	( 1 )	( 1 )	
トビ	3	3	コゲラ	1	1	
シジュウカラ	3	3	コゲラ (声のみ)	( 1 )	( 2 )	
シジュウカラ (声のみ)	( 3 )	( 3 )	アオゲラ	1	1	
ヤマガラ	4	4	ハシボソガラス	1	1	
ハシブトガラス	6	6				
ハシブトガラス (声のみ)	( 3 )	( 3 )				
合 計	羽数	1,388	種	13		
<p>昨日に続き、サシバの渡りのピークでした。忙しくて、林内のライセンサスどころではありませんでした。ここでは、初めてこんなに多くのサシバが出ました。</p>						

# 鳥 類 調 査 票

平成 6 年 1 月 9 日

調査者（柳田一郎，直子）

調査地	加世田市長屋山					
調査方法	定点（山頂展望台）+ 登山道ライセンス				天候	快晴
種 名	羽 数	計	種 名	羽 数	計	
ホオジロ	1	1	ヤマガラ（声のみ）	（4）	（4）	
ホオジロ（声のみ）	（10）	（10）	セッカ	3	3	
ハシブトガラス	4	4	セッカ（声のみ）	（3）	（3）	
ハシブトガラス（声のみ）	（1）	（1）	ウグイス	1	1	
ヒヨドリ	4	4	メジロ	5	5	
ヒヨドリ（声のみ）	（16）	（16）	ノスリ s p	1	1	
シジュウカラ	1	1	ジョウビタキ	1	1	
シジュウカラ（声のみ）	（5）	（5）				
合 計	羽数	60	種	10		
<p>前回に比べ出現羽数が多かった。意外に声もよく聞けた。冬とはいえ、快晴のため気温が高かったためと思われる。山頂近くの自然林（登山道を800m歩いた付近）がすでに伐採され、杉が植林され始めていた。</p> <p>カラ類は冬の混群と考えられ、同一方向から鳴き声が聞こえてきた。</p> <p>なお、山頂西の山間からノスリらしきタカが上昇したが、急速に大浦干拓上空に遠ざかった。</p>						

# ほ乳類調査結果

酒 匂 猛

1 調査日 平成5年8月25日 昼

調査地 加世田市長屋山

長屋山頂上の展望所でモグラ塚数個所、山中でノウサギの糞新旧3個所。ノネズミの穴数個所、タヌキの採餌跡、小動物のけもの道が数個所見られたが、動物の姿は見られなかった。

2 調査日 平成5年8月26日

調査地 坊津町

テンの足跡1個所、ノウサギの死体1頭を確認。その他の動物確認できず。

3 調査日 平成5年8月27日 夜

調査地 加世田市長屋山

ロードセンサス（長屋山往復～大浦町）でテン1頭、ノウサギ3頭を確認した。

今回は、トラップによる調査は行わなかったが、ヒミズ、ネズミ等の小動物調査にはトラップが必要と思われる。また、長期的な調査が大事なので、今後も継続して行きたい。

4 調査日 平成5年8月28日 昼

調査地 金峰町金峰山

金峰山に向かう途中、大坂付近の道路上で貴重なキテンの事故死体を発見（午前7時30分頃）頭部がかなり損傷していたが、若い成獣の雄であった。（体長50cm、尾長20cm、体重1.05kg、遺体は鹿児島大学獣医学科解剖教室で骨格標本にする）。

金峰山では神社を中心にその周辺を調査した。モグラ、ヒミズ類の穴が多数見られた。高さ10cmぐらいのところにある直径10cmの樹洞に動物の生活跡あり、ムササビ類の巣か？

イタチの糞が1個所あったほか、タヌキ？の採餌跡数個所、ネズミ等小動物のけもの道が数個所見られたが、全体的な印象として、動物は少ない感じであった。

5 調査日 平成5年8月29日 夜

調査地 金峰町金峰山

山中では何も確認できなかったが、神社付近でコウモリ声を聞く。また、ロードセンサスでノウサギ3頭を確認した。



テンの足跡 坊津町 1993.8.26



タヌキの足跡 金峰町 1993.8.28



動物に利用されたとされる穴  
金峰町 1993.8.28



けもの道 加世田市 1993.8.25



ノウサギの糞 加世田市 1993.8.25



ノウサギ<sup>レキ</sup>(轢死体) 坊津町 1993.8.26



モグラ塚 加世田市 1993.8.25



キテン(轢死体) 金峰町 1993.8.28

## 市町へのほ乳類確認調査結果

この調査結果は、調査対象地域の13市町へ、生息の可能性があるとと思われる25種のほ乳類について調査を依頼しその結果をまとめたものである。

種名	金峰町	加世田市	大浦町	笠沙町	坊津町	川辺町	枕崎市	知覧町	喜入町	穎娃町	指宿市	開聞町	山川町
1. イノシシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2. ヒメネズミ	○		○										
3. ヒメヒミズ						○							
4. テン	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
5. ドブネズミ	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
6. ノウサギ	○	○	○		○	○		○	○	○	○	○	○
7. ジネズミ					○				○				
8. アカネズミ			○			○		○				○	○
9. カワネズミ													
10. キツネ	○									○		○	
11. クマネズミ				○			○						
12. アナグマ	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
13. ヤマネ													
14. ジャコウネズミ													
15. タヌキ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
16. ハツカネズミ		○		○			○	○	○	○		○	
17. モグラ	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
18. ニホンザル	○	○	○	○									
19. コウモリ類	○		○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
20. シカ													
21. カヤネズミ			○									○	○
22. ヒミズ													
23. イタチ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
24. ムササビ	○		○	○		○	○	○					
25. ハタネズミ												○	